

(別紙様式)

令和6年度学校自己評価システムシート（学校法人昌平学園 昌平高等学校）

(A 3判横)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	---

重点目標	1.才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2.人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3.健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4.国際教育：国際的視野に立つて考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価（3月）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①進路目標実現に向けて生徒が主体的に学ぶ環境を作る。ICTを活用し授業展開における学びの幅も広げていく。 ②進路目標や部活動等、課外活動を含めた自己実現に向けた計画的な取組みができる体制を整える。 ③各種資格の取得(英検・GTEC・TOEIC など)を推進する。 ④自習室の充実化をはじめ授業はもとより、自学自習を習慣化できる環境作りを行い、生徒全体に積極的な働きかけを行う。 ⑤探究活動	①教員が教材研究を積極的に行い、授業力向上に努めているか。進路指導部を中心に模試等の分析を行い、担任から状況をフィードバックする体制を整えることができているか。ICTを活用し、生徒の主体的に学ぶ意欲を向上させることができていくか。 ②進路目標の達成に向け、学校全体で情報を共有し、生徒にアドバイスを行える体制が整っているか。 ③パワー・イングリッシュ・プロジェクトを掲げる中で資格取得の推進、計画的な取得ができるよう働きかけができているか。その他の資格試験についても積極的な取組みを促すことができているか。 ④生徒が掲げる進路目標の達成に向けて学習計画および学習時間の管理等、アドバイスをを行うことができているか。	①授業準備を積極的に行うために、分掌業務の配置整理を行う。進路指導部および学年を中心に模試分析を積極的に行いフィードバックできる体制を整える。進路指導部や高3学年団の教員を中心に入試データ分析研修会等に積極的に参加し情報を得て全体に共有していく。教員研修の時間を活用し、ICT授業の実践例を周知する。 ②進路イベントや相談等を積極的に実施し、生徒が有益な大学情報を取得できる機会を作る。学年や担任からも入試情報について、生徒に直接伝達し学習意欲の向上に努める。部活動等の課外活動においては顧問を中心に目標を明確にする中で計画的に活動を行う。 ③各種検定の積極的な受験を促すよう担任が周知を行う。また、英検等をはじめ校内でも受験ができる体制を整える。 ④学習室の環境整備に努め、自学自習に積極的に取り組めるよう周知する。チューターをはじめ質問対応ができる体制をよりよくする。また、スタディサブリの活用等、補完的な学習もしていくよう体制を整える。	①教科指導準備以外の業務となる分掌業務や部活動指導において、業務整理を行い、教材研究の時間を確保している。しかし、一部の教員に業務が偏ってしまう状況がまだ見られるため改めて調整を行っていく必要がある。DPクラスだけでなく、ICTを活用し工夫した授業を展開する教員は増えており、授業展開の幅は広がっている。進路指導部や学年主任が中心となり、模擬試験の分析を行い、結果から出た課題を個々にフィードバックし、生徒が学習意欲向上に努めている。 ②高大連携授業や進路相談等、校内の進路イベントを積極的に行い、大学情報を得る機会を作っている。 ③各種検定の取得状況を担任が把握し、大学受験等でも活用できるようアドバイスしている。ただ、受験者数については少ない回もあり、今まで以上に積極的に取り組むことができるよう環境整備を行っていく。 ④自習室の利用生徒の中で集中力が継続できない生徒もいる。注意喚起を行うとともに環境改善を行っていく。リクルート社「スタディサブリ」も活用するよう周知している。	①7月実施の授業評価アンケート結果を検証し、各教員が改善に努めているかを適宜確認する。ICTの授業展開については、活用状況を把握し、現状の課題を確認、改善に努めているかを検証する。模擬試験の分析データについては、フィードバック状況の確認、進路目標達成に向けた対策を講じることができたか検証する。 ②各種進路行事や担任をはじめとする教員との面談等を通して、目標とする進路に向けた主体的な取り組みができる環境作りができているか。 ③資格取得の積極的な取り組みを促すために、有益な情報伝達が明確にできたか。 ④学習室運営委託業者と連携し、活用状況等を把握し、学習習慣の確立を自主的に目指すことができる環境整備、働きかけができているか。	①各教員が授業評価アンケート結果より出た課題や改善点を把握し、授業に活かすよう取り組み姿が見られた。今年度も教員研修の中でICT活用実践例の提示など研修を行った。担任や教科担当が中心となり行う模擬試験結果のフィードバックは生徒個々の進路目標の整理に効果的なものとなった。現状において、ICTを活用した授業展開は教科状況や教員個々で個人差が大きが見られる。 ②今年度の進路実績は昨年度と比較し、東京大学5名をはじめ国立大学・早慶上理・G-MARCHの合格者数が伸びた。その他、生徒個々の学力に応じた大学進学に向けたアドバイスも積極的に行うことができている。 ③令和6年度については、高校内では85%の生徒が英検(3級以上)を取得している。とりわけ高校卒業程度である2級取得者は年々増加しており、全校で45.8%、また、準1級の取得者も年々増加傾向にある。国公立を含む難関私大でも大学入試においても英検利用が進む中、本校では2級、準1級の講習を実施しており、今後一層多くの生徒が2級、準1級などの上位級を取得できるよう指導していく。 ④学習室の活用については、より積極的に活用する状況が見られ、審査期間においては350名を超える日もあった。生徒の学習意欲の向上が見られる。部活動の終了後にも活用する生徒も増え文武両道を実践している。	B	①研究授業の実践や研修の参加を通して、個々の授業力向上にさらに努めていく環境作りを行っていききたい。また、教員間の情報共有をはじめ、学校としての課題を整理し、全体が把握することで更なる活性化につなげていきたい。次年度に向けた進路実績における具体的な数値目標を設定していく。ICT活用については、引き続き、教員全体で研修を通して実践例等、情報共有していく体制を整えたい。 ②次年度も学校主催の進路イベントの実施、外部主催のイベントのアナウンスなど生徒にとって有益な情報を共有できる環境を整える。 ③パワー・イングリッシュ・プロジェクトにおける英検等の資格取得をはじめ、各種資格取得の有益な情報を発信していきたい。また、現状の取得状況における今後の対応等を含めた分析を行う中で、大学受験での活用方法など生徒に積極的に伝達していく。 ④学習室を活用する生徒が増えていることは非常に良い状況と言える。ただし、利用においての課題があるため、環境作りにおいて整理、対応を行う必要がある。
2	①日常生活のマナー指導、身だしなみ、学習を継続して行う上での基本的な生活習慣の確立を目指す。 ②生徒が活躍できる機会、主体的に参加する生徒会活動や課外活動の充実化を図る。 ③生徒のコミュニケーションスキルが向上できる環境づくりを行う。	①頭髮・服装をはじめとする学校のルール遵守、また生徒が公共交通機関や自転車での通学時において適切なマナーを理解し適切な行動ができているか。 ②学校主催行事や外部行事等、生徒会活動や部活動をはじめとする課外活動の充実化が図れているか。 ③教員が様々な活動を通して生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができているか。	①日常においては、生活指導部が企画する朝の登校指導等で現状を把握する。また、担任を中心にホームルーム指導、学年集会を通して指導を行い、より良い環境を作る。 ②運動部はもとより、文化部の部活動発表会、ボランディア活動の企画等積極的な参加を呼び掛ける。 ③定期的に面談を行い、生徒に寄り添った形で指導し、意欲的な活動を促す。	①登下校時の通学マナー等について外部から指摘を受けることもあった。特に自転車利用者については適宜集会等でも周知している。担任や部活動顧問など指導を行っている。 ②文化部も校内発表会を実施する中等、充実した活動ができている。 ③担任を中心に生徒と適宜コミュニケーションをとる中で、生徒の実態把握に努めた。	①登下校時や学内における校則遵守など状況把握を行えているか。また、外部からの声も参考に全体に周知および指導ができているか。 ②生徒会主体の活動において、生徒が充実感を持てる活動ができているか。 ③現状把握に努める中で、学習や課外活動等、積極的な取組みに繋げることができているか。	①特に登下校時の通学マナーについて、外部の方からマナー等について指摘を受ける状況があった。特に自転車通学者については並列走行等を含め危険が生じる状況が多くなることから、担任のみならず学年集会などで周知し、改善に努めていく必要がある。 ②生徒会を中心に各部の発表機会が継続的に作られていることは良かった。外部への発信も含めての企画も検討していきたい。 ③生徒へのアプローチについて各所でメンタルケアを含め、生徒が前向きに取り組める働きかけをしている。	B	①教員においても学内におけるルールの確認を適宜行い、同じベクトルで指導できるように体制を整えていく。教員間で指導の差が生まれないよう調整を行っていく必要がある。 ②生徒会を中心とした企画を積極的に実施していきたい。その中で生徒の活躍の場をさらに増やしていくために外部、地域との交流も積極的に行っていききたい。 ③面談等を通して状況把握を積極的に行う環境は作っていた。今後も継続して行っていききたい。
3	①文武両道が実践できる環境を整える。 ②学年・担任等を中心に生徒が抱える様々な相談ができる体制を整える。	①文武両道を実践するために、特に担任と部活動顧問がリンクし生徒個々の学習状況を把握することができているか。 ②生徒個々、また、場合によって保護者を含めた面談等を通して、生徒が抱える悩みや解決や精神的な支援ができているか。	①部活動顧問は計画的に活動していく基盤を作り、様々な工夫を講じた中で、より良い指導を行っていく必要がある。学習面においては特に隙間時間の活用などのアドバイスをを行い生徒が効率的かつ効果的に学習を行っていくよう指導を行っていく。 ②日常の担任によるクラス指導はもとより、SNSをはじめ各種講習会等を実施するなど生徒が抱える不安を未然に防ぐ取り組みを行っている。	①顧問は限られた部活動時間において生徒が高いモチベーションでトレーニングに励むことができる環境作りを率先して行っている。また、学習面においても積極的に取り組むことができるよう生徒指導に努めている。 ②担任や学年団が中心となり、面談等を通して生徒個々の状況把握に努めている。	①文武両道を実践できる環境が整っているか。また、生徒が前向きに取り組む姿勢が見られるか。授業だけではなく、自主学習に意欲的に取り組むことができる環境が整えられているか。 ②生徒の抱える悩みや課題等、実情の把握ができているか。特にSNS等のトラブル等における問題点および実態を理解・把握できているか。	①各部顧問が中心となり、活動時間の調整など文武両道が実践できる環境を作るよう努力している。工夫をする中でも関東大会や全国大会に数多くの部活が出場するなど成果を上げている。また、野球部生徒の名古屋大学合格をはじめ、特進アスリートクラスからも国公立大学、難関私大の合格者を輩出するなど文武両道を体現できる生徒が増えている。 ②生徒の現状を把握する取り組みにおいては担任・学年団が協力する中で体制作りを行っている。SNSにおいてはまだ課題は残っている状況である。今後も適宜、講習会を実施するなど課題解決に努めていく。	B	①学習習慣の確立とともに進路実績により良い形で反映されるよう更なる指導を行っていききたい。模範となる卒業生の取り組みなど実践例を提示するなど、更なる成長が遂げられるようサポートしていきたい。 ②面談等は適宜行うペースは継続し、その他講習会等は他校の取組みも参考にしながら対応していきたい。
4	①PEPの推進、英語力強化につなげる。 ②各種行事（希望生徒対象の語学研修-海外含む）の充実化を図る。 ③帰国子女募集について更なる充実化を図る。	①全教職員が英検全員受験をはじめ英語力向上に向けた取組みを実践できているか。実践の場で活用できる英語力・会話力について授業を通して身につけることができるか。 ②修学旅行をはじめとする海外研修において、生徒が学びを得る環境作りはできているか。 ③帰国子女の受け入れにあたり、計画的な対応はできているか。また、一般生徒と帰国子女との交流機会を作るなど、積極的にコミュニケーションを取るができる環境を作れているか。	①全教職員が英語力強化に向けて英検の全員受験をはじめ積極的な取組みを促す環境を整え、生徒のモチベーション向上に努める。 ②海外語学研修の案内を積極的に行うなど生徒の活動の幅を広げる。 ③帰国子女生徒と交流する中で、英会話力向上に向けたモチベーションアップを図る。	①英検合格者を増やすために2次対策については英語科教員を中心に対策を講じている。 International Arena(日本語禁止部屋)の活用など、ネイティブ教員と積極的に会話し英語力を高める。 ②希望者対象の海外語学研修については希望者が増えている。高いレベルで英語力向上を目指す生徒が多くなっている。 ③帰国子女との交流が英語を学ぶモチベーションにつながっている。	①英検の活用による大学受験など生徒に有益な情報共有はできているか。生徒の英検等の取得状況を確認し、更なる上位級取得に向けた個別指導や働きかけはできているか。 ②海外語学研修における取組みや成果・効果などを教員全体で共有する。研修が生徒の英語を学ぶモチベーション向上につながっているか。海外在住の日本人に対して本校の認知度を高める上での具体的な取組みはできているか。	①担任からホームルームや個別指導で英検取得に向けた積極的な取組みが見られている。ただし、クラスによっては取得者が少ないなど課題も見られる。 ②修学旅行や海外語学研修を行い、英語力向上に高い意識を持っている生徒は増えている。また、希望者対象の行事も希望者は増えていることから行事を増やすなど更なる検討が必要になる。 ③帰国子女と交流する中で、英語を学習する意識、モチベーション向上につながっていると言える。募集活動においても海外での説明会等、認知度を高める取り組みを積極的に行っている。	B	①英検をはじめ各種資格の取得は大学受験をはじめとする進路活動に有益な状況となることを生徒に周知し、より高いモチベーションで取り組む環境をさらに作っていく必要がある。コース・クラス間で意識に偏りがでないよう、学校全体での取り組みという認識を教職員間で共有する。 ②修学旅行や希望者対象の海外語学研修・ハーバードサマースクールをはじめとするプログラムの参加者も増えていることから、新たなプログラムを新設し充実化を図っていききたい。 ③今年度、海外に行き募集活動を行った。部活動への興味もあり、認知度は高まっていると言える。今後も帰国子女募集にあたり計画的にかつ積極的に環境整備をしていく。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和7年3月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等
①今年度は東京大学5名、京都大学1名、東京科学大学2名をはじめ旧帝大に15名が合格をするなど、国立大学には81名と昨年の実績を上回る結果となった。また、早慶上理ICUは98名、G-MARCHについては193名の合格者を輩出した。さらに医学部医学科には9名が合格するなど素晴らしい結果だったと言える。次年度以降も現状に満足することなく更なる進学実績の向上を目指して、環境面の整備とともに、教員の授業力向上に努めることができるよう具体的な取組みを行ってみたい。 ②大学入試改革において変化が起きている現状を分析し、生徒の学力向上に向けた更なる意識改革、モチベーション向上に繋げられる取組みを積極的に行ってみたい。 ③各種資格の取得は大学進学に優位となる状況も多々ある。生徒にとって有益な情報を適宜伝達していきたい。将来の可能性を広げる取り組み、積極的な働きかけをお願いしたい。 ④学習意欲が高い生徒も増えていることから、学習室を活用する人数が増えている。更なる整備でより良い環境を作ってもらいたい。 評価：B
①日常において、生徒の事故怪我に繋がることのないように継続的な指導をお願いしたい。生徒が昌平高校の生徒であるという自覚を持ち行動ができるよう促してみたい。 ②各種行事は例年工夫を凝らした企画となっている。保護者もみることができ環境作りも行ってもらいたい。 ③生徒一人一人の成長のために生徒個々に応じた様々なアドバイスをしていただきたい。 評価：B
①部活動に所属し、文武両道を実践している生徒も進路目標を達成している状況が見られる。更なる高みを目指すことができる環境を改めて構築してもらいたい。 ②多感な時期でも生徒が抱える悩み等について、担任をはじめ教員全体で把握し、保護者とも共有する中で改善していける働きかけをお願いしたい。 評価：B
①パワー・イングリッシュ・プロジェクトは学校全体での取り組みとして継続した実績は出ていると感じる。今後も資格取得における具体的な成果を検証する中で、課題も改善していけるよう努めてもらいたい。 ②新たなプログラムの提案など、生徒の学びの幅が広がり、興味関心を持つことができる企画を提案してもらいたい。 ③帰国子女募集について、認知度が高くなっている点を鑑みて、より積極的な活動を行い、生徒間での交流を含めた活性化を図ってみたい。 評価：B

(別紙様式)

令和6年度学校自己評価システムシート（学校法人昌平学園 昌平中学校）

(A3判横)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」								
重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立つて考え、行動する力を養成する。								
達成度	<table><tr><td>A</td><td>ほぼ達成(8割以上)</td></tr><tr><td>B</td><td>概ね達成(6割以上)</td></tr><tr><td>C</td><td>変化の兆し(4割以上)</td></tr><tr><td>D</td><td>不十分(4割未満)</td></tr></table>	A	ほぼ達成(8割以上)	B	概ね達成(6割以上)	C	変化の兆し(4割以上)	D	不十分(4割未満)
A	ほぼ達成(8割以上)								
B	概ね達成(6割以上)								
C	変化の兆し(4割以上)								
D	不十分(4割未満)								
※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。									
出席者	学校関係者 3名 卒業生 1名 学識経験者 4名								

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価									学校関係者評価	
年度目標						年度評価（3月）			実施日 令和7年3月27日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	①IB授業における学びに加えて主要5教科においては基礎知識の習得に向け指導を行っていく。 ②校外学習や体験学習（プログラム）を通して自ら考えることの基盤作りを行う。その他、キャリア教育を実施し将来について考える機会を作る。 ③各種資格取得を目指す。 ④自学自習の定着を図る。	①アクティブラーニング手法を用いた授業展開等生徒の学びにおいて主体的な取組みができるよう努める。同時に基礎知識の習得も授業内で工夫し実践していく。学力推移調査の結果より学年等で目標設定を行う。 ②体験型プログラム（校外学習・体験学習）を積極的に実施し学びの幅が広がるよう環境整備する。調べ学習を積極的に実施し、主体的に学び、プレゼンテーション能力の向上にもつなげる。また、中学3年生を対象にキャリア教育特別授業を実施、多種多様な業界の方から話を聞き、今後の進路に対する理解を深める働きかけを行う。 ③PEPの一環として行う英検全員受験を通して、資格取得に向けた対策をはじめ積極的な働きかけを行う。 ④担任を中心に日常における学習計画の構築や目標設定など適宜アドバイスを行う。	①ICTの活用など視覚的側面から知識習得に努めるなど、幅広い授業展開を実践する。教員間で授業見学を行うなど、情報交換を積極的に行い、授業の質を向上していくよう努める。主要5教科においては基礎知識の習得、定着に向けた取組みも意識しながら授業展開を工夫していく。 ②校外学習や体験学習のプログラム選定については、新たな学びが得られるよう工夫を講じていく。 ③担任・学年団等を中心に英語検定等の全員受験をはじめ、各種検定への積極的な取組みを促す。各種検定取得に向けた対策は各教科を中心に計画的に行っていく。 ④フォーサイト(スケジュール帳)やGoogleclassroomを活用し、活動計画を生徒個々で立案、習慣化させていく。また、自習室やSHシステム(自動問題作成システム)の活用、講習の実施など各自の課題克服に取り組むことができる環境を整備する。	①IB授業を展開する教員がICTを積極的に活用するなど生徒にとっても学びの幅が広がると同時に学習意欲も向上している。主要5教科の基礎知識習得についても並行して行っている。 ②各種活動・プログラムの実践において、様々な体験から新たな気づきを得て成長に繋げることができている。 ③英検取得に向けて、担任が積極的な働きかけを行っていることから、生徒が前向きに取り組むことができる体制ができている。 ④担任がフォーサイト(スケジュール帳)を活用し学習習慣が確立されているか等、状況把握を行っている。また、計画的に学習計画を立案する中でGoogleclassroomやSHシステム(自動問題作成システム)を活用し、自主学習にも高いモチベーションで臨む生徒も増えてきている。ただし、生徒によってはまだ学習が習慣化されず不安を抱える生徒もいるため講習などでフォローしていく体制を構築していく必要も生じている。	①各教員は授業評価アンケート結果から生徒自身の課題を確認し、改善に向けた取組みを行うことができているか。 ②生徒の主体的な学びの場を提供するための工夫を講じているか。 ③各種検定に向けて資格取得がもたらす優位性のある情報提供など生徒が前向きに取り組む環境を作ることができているか。また、資格取得に向けたフォロー体制を構築できているか。 ④担任はフォーサイト(スケジュール帳)やGoogleclassroom等を活用し、生徒が主体的に学習習慣を構築していく働きかけができているか。	①ICTを活用した授業を多く行う中で、生徒が興味関心を持つ授業展開を構築している。並行して基礎知識の習得に向けた授業も行い、学力向上に努める体制も取っている。学力推移調査の年度別比較をする中で、個々はもとより学年での課題を抽出し、学力状況に応じたフォロー体制を整備している。教員も教材研究を通して指導面における引き出しを増やしている。 ②企画している体験学習や体験型プログラムは生徒の気づきを大切にする中で充実した学びの機会となったと言える。特にコミュニティープロジェクト発表会においては生徒が工夫を講じ、プレゼンテーション能力をはじめ質は向上していると言える。 ③中学校においては、全校で99.7%の生徒が英検(5級以上)を取得した。3年生は80.0%の生徒が準2級以上を所得しており、例年の中学卒業時に準2級所持、という学校目標は毎年80%は超えている。なお各学年の目標級(1年4級86%、2年3級85.1%、3年準2級80.0%)も多くの生徒が取得している。年度を通して中3対象に準2級講習、英検各回前に各級の講習を行っていることが結果につながっている。 ④日々学習習慣が確立され学習意欲が高い生徒も増えてきているが、まだ、習慣化されずフォローを必要とする生徒もいる。担任・学年団を中心に必要な指導を講じていく。	B	①教材研究をはじめ授業準備については、現状維持で満足することはなく、教員間でも切磋琢磨できるよう環境整備する。特に学力推移調査の結果や定期考査から生徒個々に学習方法等のアドバイスができる体制を作り上げる。 ②次年度も新たなプログラムの構築など生徒のより良い学びの場を提供していきたい。 ③特に英検については学校としての取組みが良い結果に結びついていると言える。今後も大学進学や将来設計に向けて資格取得の優位性が講じられる具体的な情報を伝達していく。 ④生徒がより良い学習習慣環境を作っていくために、生徒個々の具体的な目標設定や達成に向けた計画策定を担任や学年団が中心となり行っていく。生徒状況を教員間においても情報共有し、適宜アドバイスができるよう努める。	①特にICTについては、授業展開をしていく上で必要不可欠であると言える。学内や外部での研修等を通じて全体が授業力向上に繋げられるよう取り組んでもらいたい。担任を中心に必要に応じて個別面談を行うなど、生徒の学習習慣の確立に向けた指導等を積極的に行ってもらいたい。 ②生徒が各種プログラムを通して気づきを得ること、様々な経験をすることで学習に対するモチベーション向上につながっている。今後も継続して行うとともに新たなプログラムも提案してもらいたい。 ③英検取得状況を見ても学校の取組みが良い結果に結びついていると言える。現状に満足することなくさらに上位級を目指す環境作り、取得に向けた体制を構築してもらいたい。 ④日常的に習慣化されている学習計画や個々の学習目標の把握から個々にアドバイスをしてもらえる環境は非常に素晴らしい。今後も継続的に指導を行ってもらいたい。	評価：B
2	①校内外を問わず、日常生活におけるマナー指導を行う。あわせて基本的生活習慣を確立するよう促す。 ②本部役員を中心として生徒会活動をより活性化させる。生徒が主体的に参加できるボランティア行事等を作る。 ③コミュニケーションスキル向上を目指す取り組みを活性化させる。	①生徒の状況把握に努め、校則の遵守、挨拶の励行などマナー指導について全教職員で指導することができているか。校外では特に自転車の乗り方など交通安全を守り交通事故防止対策を徹底できているか。 ②本部役員が中心となり、新たな生徒会活動の発信や校内外でのボランティア活動企画への参加等、活動の幅を広げることができているか。 ③各行事作り等、生徒間でコミュニケーションを取る機会を増やす。その中で自分の意思を明確に伝えることができているか。	①生活指導部を中心に校内外の巡回指導を行う。その他、自転車通学者を対象に集会で注意事項を伝達する等、生徒指導体制を構築する。 ②特にボランティア活動については、学校内だけでなく地域や外部団体ともリンクした形で行うことも検討する。 ③各種行事等の取組とともに授業内でも調べ学習からプレゼンテーションの実施など生徒が主体的に活動する場を増やす。	①通学路や公共交通機関の利用におけるマナーについて、外部の方から指摘を受ける状況があった。 ②中学単位で活動する機会は少なかった。文化祭企画など高校生とリンクして一緒に活動する機会を作るなど工夫を講じていく必要がある。 ③一部の宿泊行事では教員からの指示伝達を英語で行うなど生徒の学びの幅を広げる工夫も行っている。	①生徒が学校の校則を理解できているか。また、指導を通して生徒の自覚を促す取組はできているか。 ②生徒会を中心に行事を創出するなど主体的な活動はできているか。 ③工夫を講じた授業展開、各種行事において、コミュニケーション能力を向上させる機会を作ることではできているか。	①特に自転車や電車マナーにおいては外部の方から指摘を受けることもあり、注意をしていかなければならない状況もある。ホームルームで担任が指導するだけでなく、学年集会等で生徒全体に指導・呼びかけを行い改善していく必要がある。 ②生徒会主体の活動については昌平祭の企画運営をはじめ、高校生と活動する等、良い機会が増えた。次年度も中学校としてボランティア活動を行う等、様々な企画を構築できるよう促していきたい。 ③教員間で情報を共有し、生徒の成長のために工夫を講じていくことで良い方向での指導ができている。	B	①校則の遵守およびマナー指導については、事が起こってからの対応ではなく、年度始めに集会等を実施し、全体に周知徹底していく。その中で起こり得る課題を解決していくために、常に情報共有を行っていく。 ②地域交流等、生徒主体で企画をしていく体制を整える。また、新たな企画の創出ができる体制を作る。 ③様々な課題に対して、担任が一人で抱えるのではなく、管理職を含め、教職員全員で生徒が成長できる体制を作っていく。	①生活指導は生徒の成長にとって非常に大切となる。今後も学校全体で生徒を育てる体制を構築する中で、昌平生であるという誇りを持てるよう指導を継続してもらいたい。 ②生徒会活動を活性化させることで生徒が主役となる場が増える。教員にもアドバイスをもらいたい。 ③多感な時期だからこそ、それぞれ不安や悩みを抱えている生徒も多い。生徒個々にアプローチ、働きかけを通して成長を実感できるようにしてもらいたい。	評価：B
3	①体育・スポーツ・文化活動を推進する。 ②教育相談を充実させる。	①各運動部、文化部の活動を活性化させる上で、明確な目標を掲げているか。また、達成に向けた積極的な取組みが見ることができたか。 ②生徒個々の状況を把握しサポート、指導をしていく体制が構築できているか。	①各部において大会等に向けて日々の活動を計画的に行う。限られた時間の中で生徒のやる気を引き出すために工夫を講じる。 ②個々の学習状況やメンタル面を含めた状況把握をするために面談等を積極的に行う。その中で担任を中心にフォロー、後押ししていく体制を作る。	①活動日数や活動時間は限られている状況の中で、トレーニングメニューの工夫等で設定した目標達成に向け努力する姿勢が見られる。 ②生徒の状況を理解し、個別で面談を行うなどフォロー体制を構築している。	①生徒が部活動をはじめとする課外活動で目標を掲げ、達成に向けた積極的な取組みはできているか。 ②生徒個々の状況把握ができているか。また、状況に応じて、不安を抱える生徒へのフォロー体制を整えることではできているか。そして、教職員間で情報共有し指導体制を確立することができたか。	①各部活において生徒が活躍する機会も増えている。日々の活動に一生懸命に取り組んできた成果が見られる。 ②面談等を行い、生徒が抱える不安や悩みを解決していけるよう対応している。その中で学習への意欲が更に高まるよう担任や学年団を中心にアプローチしていく必要がある。スクールカウンセラー便りを通して保護者にも情報共有する。	B	①個々および部全体等の目標を達成するために生徒の意識レベルをより向上させる取り組みをしていきたい。技術力向上や結果だけにこだわらず、活動を通して精神面での成長を遂げられるようアプローチしていきたい。 ②個別面談等を通して生徒の精神面にアプローチし、現状把握に努めていく。	①部活動をはじめとする課外活動や生徒会活動は生徒の主体性を育む良い機会となる。生徒にとってより有意義な活動ができるよう、更に良い環境を作ってもらいたい。 ②生徒と積極的にコミュニケーションを取り、モチベーション向上に繋げていけるよう、継続した取り組みを行ってもらいたい。保護者と情報を共有し、共通理解を持って指導していくことで生徒の成長にもつなげることができる。今後も学校全体としてより良い教育環境を作ってもらいたい。	評価：B
4	①実践的な英語力を身につける。 ②「SDGs」世界を共通テーマにグローバルな視点から課題をみつけ探求していく。 ③実践的な学びの機会を作る。研修等を含めた学びの場の提供を行う。 ④IB（国際バカロレア）による学習効果の向上を目指す。	①授業で学んだ英語の知識を実践の場で効果的に使うことができるか。また、自分の考えを自ら発信することができるか。 ②世界を意識する・知ることによって様々な事象を多面的に捉えることはできているか。 ③生徒が授業で学ぶ英語の知識を海外修学旅行や語学研修等で実践できているか。また、生徒個々にスキルアップにつなげる機会を提供することができるか。 ④MYP（中等教育プログラム）における学習効果がグローバル人材の育成につなげることができるか。	①英語の授業を通して基礎知識の習得を目指すとともに授業内でのプレゼンテーションを行う機会を作るなど、実践的な場で活用できるスキルを習得する。 ②校外学習や日常の調べ学習を通して、世界で起きている様々な問題にアプローチし、様々な事象を多面的に捉えることの重要性を知る。 ③授業内で学んだ知識を修学旅行やブリティッシュヒルズ語学研修等において実践できる機会を作り主体的に学ぶことができる場を提供する。 ④アクティブラーニング手法を用いて主体的に学ぶ環境を整える。また、調べ学習やディスカッションを行うなど、授業で実践できる場も作っていく。	①英語Gの授業展開は基礎知識を習得することが中心となる。IB英語はプレゼンテーションを行う機会を作り、実践的な英語力を身につけることができる。 ②テーマをもとにグループに分かれてディスカッションを行った。活動を通して調べ学習を含め主体的に取り組む、様々な角度から問題に対して考える機会を作った。 ③英語科教員を中心に各種行事での指示も英語で行う等、工夫を講じている。また、ブリティッシュヒルズ語学研修や希望者対象の語学研修等を企画し実践できる場を提供している。 ④授業手法を含め教員間で情報共有を行うことでスキルを高める環境を作っている。	①基礎知識の習得については、学力推移調査の結果から検証する。IB授業については実践的な場で対応できる英語力向上につながっているか。また、生徒の理解状況を把握し、進度をコントロールすることではできているか。 ②探究型プログラム等を通して、生徒が主体的に学び、課題に取り組む環境は作られているか。 ③各種学校行事や希望者を対象とする研修等で生徒の活動、学び、実践的な英語力向上が見込まれる企画を提供できているか。 ④教員間で授業情報等を共有し、質の高い授業展開につなげることができているか。	①基礎知識の習得には学習の習慣化も必要となる。授業の質を高める働きかけが必要となる。IB授業においては教員間も授業見学を行うなど質が高まっている。 ②探究学習では、生徒が自ら考え、課題を発見する力が養われている。 ③日常で学んでいる英語が実践で活用できるかを各種行事で確認することで、英語力を伸ばす上でのモチベーション向上につながっている。 ④IB授業を行うにあたりICTの活用等を含めた授業手法におけるアイディアを教員間で情報共有した。今後も継続していく中で質の高い授業を展開したい。	B	①学力推移調査の結果で基礎知識の習得状況を確認し、課題を抽出する。学校および個々での課題を改善するために指導体制を含め見直しを行っていく。IB授業では探究心や思考力向上を求めていく上でプレゼンテーションの活用を含め授業手法に工夫を講じていきたい。 ②生徒の主体的な学びへの働きかけを積極的に行い、学習効果を高めていきたい。 ③新たな行事を企画するなど今以上に英語を実践的に活用する環境を作る。 ④教員間で情報共有を行うことで教員の指導スキルの向上につながる。教員全体がIBの本質を理解できる体制を構築することも大切になる。	①PEPを通して、英語力向上に高い意識を持つ生徒は非常に多い。通常の授業（基礎知識の習得）とIB授業のバランスを取り、生徒の成長に繋げてもらいたい。 ②生徒が主体的に学ぶことができる環境は生徒にとって非常に有益だと言える。今後も工夫を講じた授業展開を実施してもらいたい。 ③学校行事はもとより、英語での指示等、日々学習している英語を実践の場で試す機会や日常での工夫を講じた指導は今後も継続してもらいたい。今後より良いプログラムの提案などをお願いしたい。 ④教員間での情報共有や外部研修を通して授業の質を高めることは非常に素晴らしい状況と言える。今後も継続的に行い、より良い体制を作ってもらいたい。	評価：B